

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成28年												平成29年																			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 ~8日	8月 ~13日	8月 ~20日	8月 ~27日	9月 ~3日	9月 ~10日	9月 ~17日	9月 ~24日	10月 ~1日	10月 ~8日	10月 ~15日	10月 ~22日	
カンピロバクター	72	56	111	153	116	189	214	150	101	118	66	84	61	68	80	122	83	118	142	18	17	24	28	22	18	33	25	44	48	24 (25)	16	
病原性大腸菌	140	146	163	167	150	157	240	182	166	227	180	147	107	105	89	113	64	135	206	27	49	32	53	26	22	42	12	18	31	22 (25)	13	
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	3	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0
サルモネラ	12	4	2	8	12	4	19	21	12	16	4	6	0	1	7	11	10	13	18	12	6	7	4	4	4	0	1	3	2	3	2	
黄色ブドウ球菌 MSSA	23	20	25	14	19	32	14	24	23	27	8	15	6	11	12	15	9	21	32	2	5	4	6	3	2	14	5	6	6	2	7	
黄色ブドウ球菌 MRSA	11	11	16	21	20	27	24	19	19	18	14	20	16	19	13	17	15	23	27	5	2	3	6	4	5	7	6	4	1	5	6	
腸炎ヒブリオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	1	0	3	3	1	9	10	9	4	2	2	0	2	1	3	0	5	9	3	2	1	5	1	2	1	1	2	5	1	1	
ロタウイルス	4	19	29	24	29	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
アデノウイルス	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
ノロウイルス	20	20	5	9	2	2	5	0	0	0	0	21	7	4	8	6	11	13	8	0	0	0	2	0	1	0	0	2	0	1	0	

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

* その他の1件は、アエロモナスでした。

広島県感染症発生動向週報

平成29年第42週(10月16日~10月22日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7	1		1		3	1	1
三類	6	腸管出血性大腸菌感染症	6					6		
四類	6	重症熱性血小板減少症候群	1						1	
		マラリア	1					1		
		レジオネラ症	4		1	2		1		
五類全数	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2		2					
		梅毒	2							2

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第42週 10/16~10/22)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. 腸管出血性大腸菌感染症

6件の報告があり、今年の累計は15件となりました。
腸管出血性大腸菌に感染した場合、無症状や軽症で終わるものがほとんどですが、激しい腹痛、水様性の下痢、血便、嘔吐、高熱とともに、ときには重症となることもあります。特に、乳幼児や高齢者では、溶血性尿毒症症候群や脳症などの合併症を引き起こしやすいため、注意が必要です。

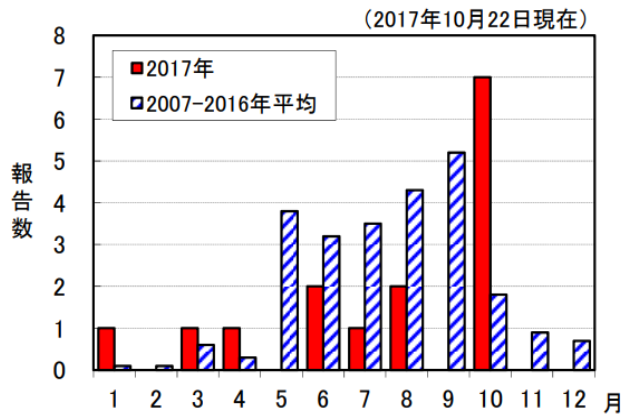
2. 感染性胃腸炎

定点当たり4.46人と、前週と比べて増加しました。

3. レジオネラ症

1件の報告があり、今年の累計は22件となりました。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
フィレン	インフルエンザ	3	0.08	0.07		小児科	流行性耳下腺炎	5	0.21	0.69	
小児科	咽頭結膜熱	8	0.33	0.31		眼科	RSウイルス感染症	27	1.13	1.04	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	2.42	1.25			急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	107	4.46	4.27			流行性角結膜炎	4	0.50	0.60	
	水痘	10	0.42	0.48		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	43	1.79	0.68			無菌性髄膜炎	-	-	0.06	
	伝染性紅斑	-	-	0.11			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.29	
	突発性発しん	4	0.17	0.45			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.07			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	5	0.21	0.19							

急増減 ↑ (前週と比較しておおむね1:2以上の増減)

増減 ↗ (前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減)

微増減 ↘ (前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減)

横ばい ⇄ (ほとんど増減なし)

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	113	女性(30歳代)・推定感染地域: 国外・1人、男性(80歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	6	15	女性(10歳未満)・O26・4人、男性(30歳代)・O26・1人、女性(30歳代)・O26・1人
4	マラリア	1	3	女性(20歳代)・推定感染地域: 国外
4	レジオネラ症	1	22	男性(40歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
ヘルパンギーナ	発熱(38.7) 上気道炎	5	男	2017/09/18	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の神経疾患	歩行障害 性格変化	7	男	2017/09/01	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型 ヒトヘルペスウイルス7型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載